

要請書

小牧基地司令 鮫島健一様
自衛隊員のみなさん

日米の大規模軍事演習、キーン・ソード25が、10月23日から11月1日にかけて行われます。陸海空自衛隊計約3万3000人（艦艇 約30隻、航空機約250機）と米軍1万2000人（艦艇 約10隻、航空機約120機）とオーストラリア、カナダ、フランスなどがオブザーバー参加します。島嶼防衛やミサイル防空を想定し、日本周辺、とりわけ南西諸島の島々をはじめ、全国の自衛隊施設を使用しておこなわれます。今回の演習では初めて民間の空港12ヶ所、港湾20ヶ所を使用します。32ヶ所の中に、県営名古屋空港と名古屋港が含まれています。県の担当者によると、「通常の滑走路を使った使用」との説明でした。また春日井市の担当者によると、キーンソード25と全く同じ期間10月23日から11月1日まで小牧基地、高蔵寺駐屯地で陸上自衛隊をふくめた「共同基地警備訓練」をおこなうとのことでした。これは東海防衛支局からの連絡だとのこと。担当者によるとキーンソード25との関連はわからないということです。「警備」ということで、訓練規模を小さくみせていますが、北海道から沖縄与那国まで全国の施設を使用して展開されるキーンソード25＝「台湾有事に対処する日米共同作戦の実戦訓練」と一体のものであることはあきらかです。九州や南西諸島の島々を「戦場」とみたとミサイル戦争の実戦訓練ともいわれます。長射程ミサイルの生産拠点や弾薬庫を持ち、空中給油機能を持つ大型輸送機が配備されたこの地域の「防御」が警備規模のもので収まるはずがありません。その意味で台湾有事とこの地域はつながっており、「戦場化」はこの地域にもおよんできているといえます。現在名古屋空港、名古屋港は特定利用空港・港湾に指定されてはいませんが、今演習において名古屋空港、名古屋港を使用することで有事にむけた施設利用・「特定利用空港・港湾」指定に道を開くと思われる。

中国政府は10月14日台湾周辺で空母をふくむ大規模な軍事演習を行いました。この演習をもって中国の脅威、台湾有事が日本のマスコミなどで喧伝されました。しかしながらこの時点でキーンソード25はすでに計画されていたのであるし（今年2月）、9月25日には自衛隊艦船による初めての台湾海峡通過をしており、日米はすでに「挑発」の行動をおこなっているのです。もはやどちらが「力による現状変更」をすすめているのかわからないほどの状況といえます。

基地司令に要請します。

1. 中国への危険な挑発行為であるキーンソード25を中止すること。
2. 県営名古屋空港を「特定利用空港」に指定しないこと。
3. 自治体や住民にキーンソード25と地域施設との関連を十分説明すること。通常の訓練というのは事実ではありません。

以上の要請を上申してください。

2024年10月26日

不戦へのネットワーク

名古屋市中村区那古野1-44-17 嶋田ビル
TEL 050-3593-5130